

## 新年を迎えて

高岡教区教務所長 西岡孝了

皆さまには、阿弥陀さまの大慈大悲の願いの中にあつてそれぞれのお立場で、また感慨をもって新年をお迎えのことと存じます。

平素から教区の宗務推進に一方ならぬご理解とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

今年は、平成から新たな元号に変わり、新たな時代を迎えます。このことは、私を取り巻く様々な社会状況が、加度的に変わっていく中、将来にわたって、浄土真宗のみ教えに生きる基盤を確保するために、今を生きるわたしたちが次ぎの時代に何を継承していくか、そのことを見極めるチャンスを得たことではないでしょうか。

具体的には、宗門として基軸となつていきますのが、専らご門主の「念仏者の生き方」(平成二十八年十月一日、法要開始日のご親教)を基本とした、宗門総合振興計画の取り組み(註)であります。

一方、高岡教区としては、①安定した財源の確保 ②教区内に在る「高岡教区教学財団」「井波別院」「福光教堂」や「教区教務所」の運営に、皆さまお一人お一人が責任をもつて参加できる形を実現することであると思ひます。

皆さまには、先ず、これらの機関が抱えている現状と課題への認識と想いを共有して頂きたいのです。そして、それが教区全体の議論になり、次代へ引き継ぐべきものが何であるか、その道筋が付くことを願っております。

僭越ながら、私も、縁があつてこの教区に居る一人です。ラグビーの合言葉「一人はみんなのために、みんなは一つの目的のために」の思いに立ち、この教区に居ることの夢と希望を語り合う年にしたいものです。

最後になりましたが、教区にとりましても、今年が新たな幕開けとなりますよう、皆さまには、尚一層のご指導ご

鞭撻をお願い申しあげ、年頭のご挨拶とさせていただきます。合掌

(註)ご門主の「私たちのちかい」(十一月二十三日・秋の法要ご親教)とご消息「親鸞聖人御誕生八百年・立教開宗八百年についての消息」(一月九日発布)を同封しておりますので、ご清覧ください。

## ◇ほとけのいっどもつどい

十二月二十二日、西本願寺高岡会館にて「二〇一八年度高岡教区ほとけのこどものつどい」が開催されました。

毎年、少年連盟、仏教青年会、寺院女性会若女性部会主催で企画運営されている、教区のこどもたちに向けた恒例のイベントです。礼拝堂で「らいはいのうた」をお勤めし、ご法話を聞き、元気いっぱいゲームなどをして遊びます。そして、昼食を囲んで、午後からはクラフトやアクティビティーを楽しんでいます。

今年は、お勤め後は「しんらんさまのおいたち」の紙芝居でした。私たちにお念仏の教えを伝えてくださったしんらんさまの幼少期のご苦労とお念仏との出会いを、お話と絵を通して味わいました。その後お焼香の仕方を学び、実際に二人ずつ前へ出て、お作法をやってみました。

そして、こどもたちのお楽しみみのゲームの時間は、幼児から小学六年生の異年齢のこどもたちが交ざって、班対抗で行いました。風船を使ったレースや新聞乗りバランスゲーム、伝言ゲームなど、盛り上がるにつれ、徐々に緊張感がほぐれていく様子が分かりました。

お昼ご飯は、毎年餅つきをして、つきたてのお餅をいただいでいたしましたが、今年は大きなお鍋でじっくり煮込

んだカレーライスをお腹いっぱいいただきます。

午後からのアクティビティ「謎にチャレンジ」きみはこの謎を解けるか！」では、最初に個人で解く問題、そして午前中のゲームの班ごとに協力して複数の謎を解く問題が用意されていました。自分一人では全てを解くのは難しくても、班内で分担、協力して解き進めてキーワードを見つけ出し、分からなくてもその答えは教えあって班全員が理解するのがルールになっていたので、自然にこの日初めて会ったともだちとも交流し、協力していました。三ステージを終えても「もつとやりたい！」という声に、少し難しい謎解きをみんなとできた達成感が意欲に繋がっていることを感じました。「あたらしいともだちをつくらう」という最後のキーワードでチャレンジは終了しました。

これからも阿弥陀さまの教えとともに聞かせていただき、学びや交流を楽しめるつどいの場となればと思います。

高岡教区少年連盟 飛鳥千春（若神組善興寺）

### ◆高岡教区第二十次支援班が福島で餅つき

十二月二十五〜二十七日にかけて、教区災害救援活動専門委員会（織田隆夫委員長）の企画による第二十次支援班が福島県飯館村とその仮設住宅を訪れ、餅つきとうどんの炊き出しを行った。

これは、東日本大震災発災の年から毎年、行われているもので、八回目となった今回は、大学生から七十代の九名が参加、飯館村の方々と共に餅をつき交流を深めた。

今回は、これまで交流のあった仮設住宅が供与期間満了によって廃止



されていくなかで最後に残った仮設住宅と飯館村内との二カ所での催しとなった。初日は、今回、初めての訪問となった「飯館村交流センター」。ここは各地に散り散りになった村民の「集いの場」として三年前に建てられた施設で、今回の使用にあたっては飯館村職員でもある相馬組善仁寺住職の杉岡誠さんの尽力によって開催にこぎつけたもの。朝、会場に到着すると、これまでの交流でお会いした飯館村の皆さんが既に集まっておられ支援班メンバーとの再会を喜び合った。餅つきが始まると駆けつけた方々が次々と餅をつきあげられ、建物のなかで待ち受けるお母さん達があつと言う間にお正月用の鏡餅に形を整えられ、手際よくパック詰め作業を進められた。終了後の交流会では、「仮設住宅がなくなる来年以降も、なんらかの形で高岡の皆さんとの交流は続けて頂きたい」との声を頂いた。

餅つきが終わった後、杉岡住職の案内で現地学習に赴き、飯館村の復興の取り組みを視察した。国の支援によって酪農や花のハウス栽培など様々な農業振興が行われ、他府県からの移住者が増え村営住宅や学校などの新たな施設が復興を感じさせる一方で、放射能で汚染された廃棄物や土などの容積を減らすため山中深くに百六十億円を投じて作られたという巨大な減容化工場には、支援班のメンバーも終わりのない除染事業の虚しさ深刻さをあらためて考えさせられていた。

最終日となった二十七日、会場の松川仮設に到着すると、集会場ではおばあさん達が準備のために集まっておられ、皆さんの期待と歓迎の気持ちが伝わってきた。餅つきが始まると寒さを吹き飛ばす様に力強く杵が振り降ろされ、「よいしょ〜」の掛け声が響いた。終わってからの交流会では「この松川第二仮設も二〇一九年三月末の解散が決定しているが、未だに二十名の入居者が家族以上のつながりの中で支えあって生きている。ここを出てどうなるのか？、みんな不安な思いで日々を過ごしている」との悲痛な声に、高岡からの参加者は「ここでの餅つきは今回で最後になってしまうけど、必ずどこかで再びお会いしましょう」と応えていた。

教区災害救援活動専門委員会では、今回の第二十次でもって支援活動の区切りとしているが、現地で伺ったご意見などを基に、今後の支援・交流のあり方を検討したいとしている。

## ◇御同朋の社会をめざす運動のコーナー

### 寺青・布教団合同実践運動研修会

去る十二月十日、西本願寺高岡会館において、高岡教区寺族青年会・布教団合同での実践運動研修会が「人々の心に訴える法話のためには何が必要か」を研修テーマとして開催されました。

僧侶としての歩みの中で、布教伝道（法話など）は、決して布教使に限ったものではありません。ご門徒に接することが多い日々の法務（現場）の中でこそ、布教伝道の学びが大切になるとの思いから、寺青・布教団合同開催の運びとなりました。

ご講師には高岡教区同朋企画専門委員長の山名一徳氏をお迎えし、初めに僧侶に対する葬儀現場からの具体的な声（僧侶の横柄で遺族への配慮に欠ける態度、読経・法話の拙さを指摘する声）を紹介され、僧侶一人一人の人間性や僧侶としての質が何よりもまず厳しく問われていることを確認されました。

次に、布教のスペシャリストを養成している本願寺布教研究課程で行われた布教実習（初めて法話を聞く方を対象）のアンケートも紹介されたのですが、聴聞者からの厳しい批評を通して見えてきたものは、法話がなかなか受け入れられていないという現実でした。

ご講師はその原因を、伝える側と聞く側の「救い」に対する認識のズレだと指摘されました。伝える側の私たち僧侶にとっての「救い」とは、「誰もが仏に成らせていただく」ということ。一方で聞く側にとっての「救い」とは、「自らの苦悩が解決されていく」「今ある問題が乗り越えられる」といった現実即したことです。つまり、私たち僧侶が語る「救い」には「現実」が抜け落ちてしまっていることが、聞く側に受け入れられない原因なのだ

と、のご指摘でした。

「現実」が抜け落ちていく理由は、聞く側の立場に立っていないからだとも示されました。人は皆それぞれに置かれた状況が違います。そのような社会の中では様々な苦悩や問題があるはずですが、まずは、それら社会の問題とすべきものに目を向けることが大事なのであり、そういった問題に対して「親鸞聖人ならばどう受け止められるだろうか」という視点でお聖教に向き合って法話をすれば、「現実」にそぐわないことは絶対になく、聞く側の心に必ず伝わる法話になるとお話しくださいました。

後半の講師所感においては、浄土真宗の現世の救いは「非僧非俗の生き方（親鸞の思想）」にあると示され、人間の都合や欲望によってもたらされるものに迎合することなく、一人一人の命を蝕んだり傷つけたり奪ったりしている現実問題（社会問題）に向き合っていく重要性を指摘されました。そして、それらの問題に目を向けていくためには、仏教に限らず、社会的な幅広い情報を知っていくことが布教伝道をする僧侶にとって不可欠だと仰られました。問題を自らの課題として、「聖人、また仏教はそのような課題に対しどんなアプローチをしてきたか」という視点でお聖教を読む大切さを重ねて確認され、皆で共有しました。

現実離れた安易な「救い」の言葉は人の心には届きません。単純に「仏徳讃嘆」さえすればよいという布教伝道では、現実問題から目をそむけさせ、人の苦悩を踏み台にする差別につながることであります。現実の諸問題に向き合い、しっかりとアプローチする布教伝道をしていくこそが、僧侶としての本分であり、ひいては人の心に通う法話につながるのではないのでしょうか。それを胸に刻みつつ、これからも共に研鑽させていただきたいと思えます。

【高岡教区布教団副団長 福田慶隆】

◇これからの日程（1/14～2/16）◇

1月	教区・財団行事	教化団体・組行事
14	常例法座 ※14, 15, 16日は御正忌報恩講のため 教務所事務は休業いたします。	
17		ビハーラ役員会
18	教区新年会	仏婦教材委員会 ヤスクニ小委員会 総代会組担当者会議
21	連区寺院振興対策委員会（富山教務所）	仏婦執行部会
22		教区青年布教使研修会
24		寺女役員会
25	聖典セミナー（第10回）	
26		まことの保育研修会
29		仏婦新年会
30		連区ビハーラ協議会（岐阜）
2月		
4		少年指導者研修会
5		連区青年布教使研修会（～6）
12		寺青役員会
14	常例法座	
16		門徒推進員研修会

☆お知らせ☆

『法輪せんべい』販売について

お茶菓子やご法事・ご法座の折のお扱いにいかがでしょうか。お申し込み先は下記のとおり。

FAX. でのお申し込みも承ります。どうぞご利用下さい。

一袋二枚入りで価格は次の通り

・特大箱（170袋） 8,300円

・1組（10袋） 500円

お申込み先は…高岡市東上関446 高岡教務所内  
（寺族青年会担当）

Tel. (050) 5587-7708(代表)

メール hourin18@gmail.com

ラジオ放送～西本願寺の時間～

『みほとけとともに』

北日本放送（KNB）・73.8kHz.

◎毎週土曜日（本山制作）午前6:15～6:25

□第2・4日曜日（富山・高岡制作）午前6:00～6:10

◎1/19（土）：満井 秀城氏

（浄土真宗本願寺派総合研究所副所長）

「年頭のご挨拶をうけて2」

□1/20（日）：岩嵜 勝乘氏

（富山教区富山組正龍寺）

◎1/26（土）：三上 明祥氏

（本願寺派布教使・滋賀県本福寺住職）

「救いのめあて」

◎2/2（土）：三上 明祥氏

（本願寺派布教使・滋賀県本福寺住職）

「おじいちゃんのお念仏」

◎2/9（土）：三上 明祥氏

（本願寺派布教使・滋賀県本福寺住職）

「いのちに学ぶ」

□2/10（日）：安達 秀憲氏

（高岡教区川上組空泉寺）

◎2/16（土）：三上 明祥氏

（本願寺派布教使・滋賀県本福寺住職）

「ビハーラ活動との出会い」

【西本願寺高岡会館2月の常例法座】

ご講師：林 史 樹 氏

（高岡教区伏木組要願寺）

ご講題：『 未 定 』

午後1時20分頃からビデオ上映、2時からお正信偈六首引のお勤めです。どうぞお誘いあわせてお参りください。